

陽子線セラピーニュース



目次

センター長あいさつ … P.1

固定具について … P.2

施設見学会の実施 … P.2

陽子線治療看護の特徴 … P.3

開設から現在までの状況(患者動向) … P.4

治療開始5年目を迎えて

2017年4月より名古屋陽子線治療センター長を拝命いたしました荻野と申します。2013年2月に治療を開始しました当センターは、今年で治療開始から5年目にはいりました。私個人としましては当センターの準備段階からこの事業に参加しており、陽子線治療に関与して9年目となります。今後ともよろしくお願い申し上げます。

当センターは開院前から各疾患の有識者の方々からご意見をいただきながら治療基準となるプロトコルを作成し、院内各診療科との話し合いを行いながら徐々に対象疾患の拡大に努めてまいりました。2016年4月からは全国のすべての陽子線治療施設が統一された治療方針に則り適応を決定し、同一の治療内容を行うことが定められるとともに、全治療患者のデータベースへの登録を行うことで国内全体でのデータ蓄積および解析することでエビデンスを確立し、今後の保険適応の拡大を目指した活動が始まっています。また、一部の疾患におきましては、より厳密な統一プロトコルに基づいた多施設共同臨床試験も開始されております。

これまでの当センターの主な取り組みとしましては、高精度X線治療である強度変調放射線治療(IMRT)において標準的には約7週間を要する前立腺がんの治療を、陽子線では約1か月間でおこなうプロトコルを全国に先駆けて取り組み現在に至っておりますが、7週間を要する従来の方法を置き換えることが可能であるとの感触を持つことができ、現在行われている統一治療方針としても



名古屋陽子線治療センター
センター長 荻野 浩幸

採用されております。また、肝臓がんに対するカテーテル治療やラジオ波焼灼術後の再発病変に対する治療や、X線治療では根治的な線量を照射することが困難な局所進行肺がんに対する治療数も増えてきましたが、こちらも当初想定以上の成績が出つつあり、正常部分への照射を最小限にしながら病巣への線量集中に優れた陽子線治療の安全性と有効性に手ごたえを感じている状況です。

陽子線治療は世界的に施設数が急速に増加しており、日本国内でも同様の傾向がありますが、できる限り多くの患者さんがこの治療を受けられる環境を整備するため、当センターとしても様々な活動を行ってまいりたいと考えております。

固定具について

■ 患者さん一人ひとりへの固定具を使用 ～温かい心を込めて～

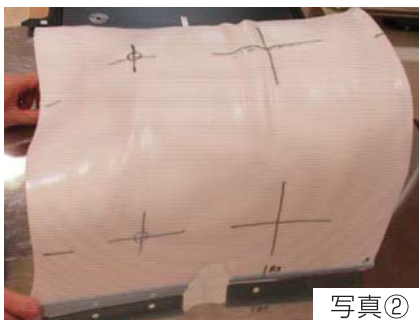
陽子線治療を進めるには、1～2週間程度の準備期間があります。この準備期間中に、陽子線治療時に、患者さんが、毎回、同じ姿勢を再現できるように、また、治療中に動いてしまわないように、患者さん一人ひとりへの固定具を作成しています。頭の下や体の下に敷く吸引式固定具(写真①)、体の上から覆うように固定するシェル(写真②)などを利用して、体の型を作成し、陽子線治療時に使用しています。

患者さんは、陽子線治療時には、肌を露出していますので、暑い季節は、患者さんへひと言『少し、冷やっします』とお声かけて治療を進めています。

気温が高い日には、暑さから少し解放されるため喜ばれることもあります。寒い季節には、適していません。そのため、陽子線治療照射業務に従事しているスタッフは、ホットカーペット(写真③)を使用して、陽子線治療照射前に固定具(写真②)を温めることで患者さんが少しでも安心して陽子線治療を受けていただくことができるように工夫しています。固定具の温かさだけでなく、季節に関係なく、これからもスタッフ一同温かい心を込めて取り組んでまいります。(陽子線治療技術科)



写真①



写真②



写真③

施設見学会の実施

今年の7月に、陽子線治療が関係するがん保険やローンを取り扱っている保険会社や金融機関、その他ホテル、がんのピアサポート活動団体などをお招きし、当センターの施設見学会を実施しました。

各参加者は、当センターの紹介動画を視聴した後、治療実績や患者動向の説明を受け、続けて、



照射室や加速器室などを見学しました。各参加者からは、「陽子線治療は前立腺がんの治療がほとんど聞いていたので、他のがんにも効果が大きいことを知り、勉強になりました。」や「がん治療の選択肢の一つとして、多くの方々に提供されるべき治療法だと感じました。」「あれほど大がかりな機械を間近で見たのは初めてでした。人と話す題材になります。」などの声をいただきました。短い時間の見学ではありましたが、当センターの特徴をありのまま知っていただく良い機会となりました。

今後も、施設見学会を継続して実施していきたいと考えておりますので、施設見学会を企画されたい場合は、お気軽に当センター運営企画室までご相談ください。(運営企画室)

陽子線治療看護の特徴



全国的に粒子線治療施設が増加傾向にあります。各施設の看護に標準化されたものではありません。また治療には、がんの根治照射、がん増殖のスピードを遅らせるための準根治照射、疼痛を緩和させるための緩和照射など、患者さんによって様々です。そのため、緻密な治療計画でどのような症状があらわれるかを予測、あらかじめ患者さんへお伝えし、早期の症状発見や、学校やお仕事の調整、ご家庭での過ごし方など、患者さんご自身で対処できるよう提案しています。当センターでは9名の看護スタッフが在籍し、患者さんの日常生活リズムを考慮した、細やかな心身のケアを行っているのが特徴です。また多職種と協働して日々治療に取り組んでいます。

■ がん療養相談

平成29年5月より、がん療養相談の対応を開始いたしました。「夜中になると、ついつい考えこんでしまう」「不安で食欲がない」「この先どうなるか見えない」と訴える患者さんが大変多くいらっしゃいますが、そう思うのは当然です。陽子線治療は長期スケジュールとなりますが、その毎日が患者さんにとっては大切な治療の機会であることを私たちは知っています。また、がん治療はたったひとりで立ち向かうものではありません。「ひとりで悩みを抱えないでほしい」「看護師にぜひ不安な気持ちをお話していただきたい」、そんな気持ちからこのような機会を設けることにしました。

具体的には、がん放射線療法看護認定看護師が患者さんとご家族さんとの面談を通じて、治療期間中の日常生活上の不安やケアに対する疑問などをお聴きし、少しでも心が楽になるよう対応させていただいています。また看護スタッフと情報を共有し、患者さんの治療の特徴を踏まえてあらわれている症状を評価して、生活への影響が最小限となるようケアの提案をさせていただきます。

「治療期間中の日々をどのように過ごしたいですか?」そんな問いかけを繰り返し、患者さんご自身が生活を見つめなおして大切なものは何かを知る機会になればと考えます。

陽子線治療科看護スタッフ一同、これからも、患者さんに寄り添った温かい看護を提供できるよう取り組んでまいります。

(看護部)



がん療養相談をご希望の場合

がんと診断された患者さんで継続して治療を行う場合に、医師へ申し出ることによって最大6回の面談を受けることができます。下記をご確認の上、陽子線治療科担当医までお申し出ください。

内容：がん放射線療法看護認定看護師が、心理的不安を軽減するために面接を行います。

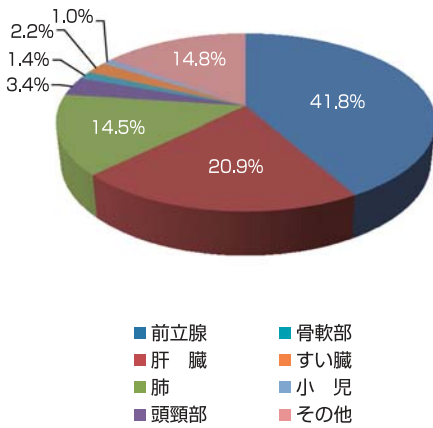
費用：医療保険が適用できます(1回200点、最大6回まで可能)

開設から現在までの状況（患者動向）

平成29年9月30日時点

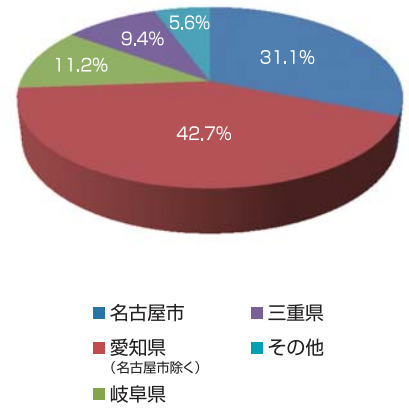
■ 部位別治療患者数

部位	人数
前立腺	798
肝臓	398
肺	276
頭頸部	65
骨軟部	27
すい臓	42
小児	20
その他	283
合計	1,909



■ 居住地別治療患者数

居住地	人数
名古屋市	593
愛知県 (名古屋市除く)	816
岐阜県	213
三重県	180
その他	107
合計	1,909



治療開始約4年半で、1,900人を超える治療を行いました

ご寄附のお願い

当センターでは、センターの運営に対し、個人や法人の皆様方から広く寄附を受け入れ、その成果を通じて東海三県初の陽子線がん治療施設としての役割を果たして参りたいと考えております。ご寄附をいただける方につきましては、名古屋市立西部医療センター管理部管理課経理係へご連絡をお願いいたします。（当センターは名古屋市立西部医療センターの一部門です。）

お問い合わせ先

名古屋市立西部医療センター 管理部管理課経理係

〒462-8508 名古屋市北区平手町1丁目1番地の1

TEL : 052-991-8121 (代表) FAX : 052-916-2038



陽子線セラピーニュース

●発行・編集／名古屋市立西部医療センター
名古屋市立西部医療センター
運営企画室

〒462-8508 名古屋市北区平手町1丁目1番地の1
電話 052-991-8588 FAX 052-991-8599
<http://www.nptc.city.nagoya.jp/>

名古屋市立西部医療センター

検索